

変人になれ。変人にならぬと信心はできぬ。

変人というは、直^{すく}いことぞ。

……金光教祖御理解 第七十二節……

解説

この御理解は、「世俗的な価値観（一般常識）を超えて『天地の神の願い』に添った生き方になれよ」との思召しであります。例えば、「お金や人を当てにするよりも、神様に頼ることを第一にせよ」との意味である。「金の杖をつけば曲がる。竹や木は折れる。神を杖につけば楽じゃ」との御教えも、『金錢』や『有力者』に頼ることが一番頼りがあるように思いがちな世間の人の目から見ると変人のすることのように思われるかもしれませんが。

しかし、世間の人からは『変人』と言われようと、そういった教祖様の教えに添った生き方を頂かなければ、真の信心にはならないのであります。顧みすれば、今日的には極めて合理的なと

讃えられる「日柄方位は見るにおよばぬ（見なくてよい）。天地の神様の司られるこの世界に忌日（悪い日）などはない」との御教えによつて、『日柄方位の迷妄』を打破した教祖様も当時の世間からは「とんでもないことを言う変人」の如く思われたのであります。

しかしこの御教えにより当時から数知れぬ多くの人々が救われてきたのであります。

即ち私達は教祖様の御教えを真に頂くことのできる『直^{すく}い変人』になつてこそ、大御蔭を頂くことが出来るのではないでしうか。